

# 令和6年度入学者選抜試験問題

(国際資源学部)

## 小論文

一般選抜（後期日程）

### 注意事項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 この問題冊子の中で、問題は4ページです。解答用紙は3枚あります。
- 3 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの乱丁・落丁および解答用紙の汚れ等に気付いた場合には、手を挙げて監督者に知らせなさい。
- 4 監督者の指示に従って、解答用紙に受験番号を記入しなさい。
- 5 解答は、解答用紙の該当欄に横書きで記入しなさい。
- 6 配付された解答用紙は、持ち帰ってはいけません。
- 7 試験終了後、解答用紙のみ提出しなさい。問題冊子および下書き用紙は持ち帰りなさい。

問題 以下は、漂着ごみ、特に海洋プラスチック汚染についての文章です。次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

# 本文省略

# 本文省略

# 本文省略

出典：保坂直紀（2020）「海洋プラスチック 永遠のごみの行方」角川新書より一部改変（八丈島の記載を省略）

## 設問

- 問 1** 日本の海岸に漂着したごみの中には、日本が出したごみもある一方、外国から流れ着いたごみもある。外国が出したごみが、なぜ日本の海岸の漂着ごみとなるのか、その理由を下線部①を参考にしつつ、文章および図 1 にもとづき、120 字以内で説明しなさい。
- 問 2** 漂着ごみのほとんどが人工物である。その人工物の内訳について、長崎県五島の例は下線部②の通り書かれている。この五島と比較し、函館に漂着したごみにはどのような特徴があるか、文章および図 2 にもとづき、200 字以内で説明しなさい。
- 問 3** 図 2 に示したように、本州の日本海側は海岸線 50m あたりの人工物の漂着ごみの数が比較的多い。遊佐ゆさなどの本州日本海側の漂着ごみの数が相対的に多い理由を文章にもとづき 2 つ以上の理由を挙げて推察し、150 字以内で述べなさい。